

Tridion Sites 10.1 の新機能

Tridion® Sites 10.1では、クラスをリードするBluePrinting®機能を大幅に強化しました。翻訳者向けの状況に応じたビューを搭載し、さまざまな新しいUI機能を追加して操作性を向上させ、パフォーマンス、セキュリティ、安定性の面で重要な更新を行っています。

Granular BluePrinting

BluePrintingは、リリース当初からTridion Sitesに搭載されてきた機能です。このプラットフォームが、多言語やマルチブランド、マルチチャネルの複雑な体験をサポートするために多くの組織に選択されている理由は、この点にあります。Tridion Sitesの今回のリリースでは、新しいGranular BluePrinting機能により、ローカライズ済みコンテンツのより高度な管理が可能になりました。

以前のバージョンでは、コンテンツのローカライズ中に次の問題が発生していました。

- コンテンツの親項目とローカライズした子項目が同期しなくなることがありました。そのため、親項目の値を変更した場合、それをローカライズしたすべての子項目に手動で適用する必要がありました。
- 親と同期させる必要のあるフィールドまたはページ領域を、エディターが意図せず変更してしまうことがありました。

Granular BluePrintingでは、ローカライズ済み項目の中でユーザーが変更可能なフィールドをコンテンツモデラーが制限できるため、このような問題が解消されます。制限は次のスキーマで定義されます。

- コンテンツ/メタデータのフィールドレベル
- ページ領域レベル

これらの新機能は、Experience Spaceと従来のユーザーインターフェイスの両方で使用できます。

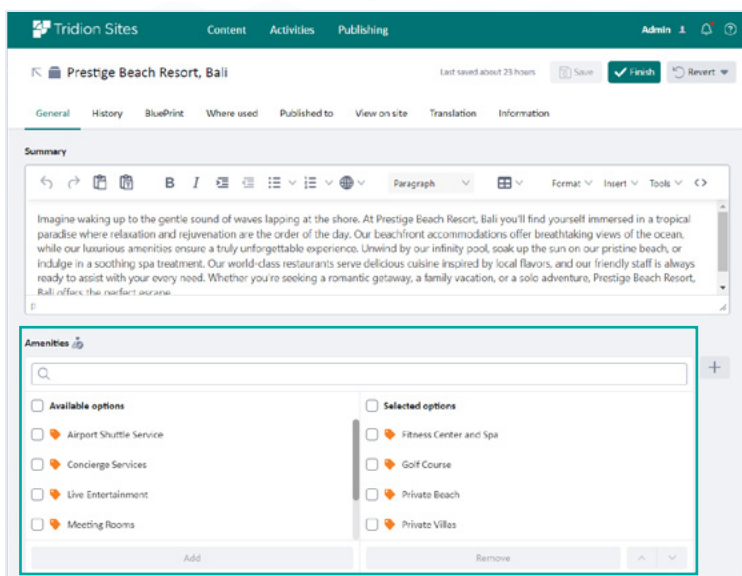
Tridion Sites 10.1 の 主な更新点：

- Granular BluePrinting とローカライズ対象外フィールドの導入
- Experience Space の新しいBluePrinting 管理機能
- 翻訳者向けの状況に応じたビュー

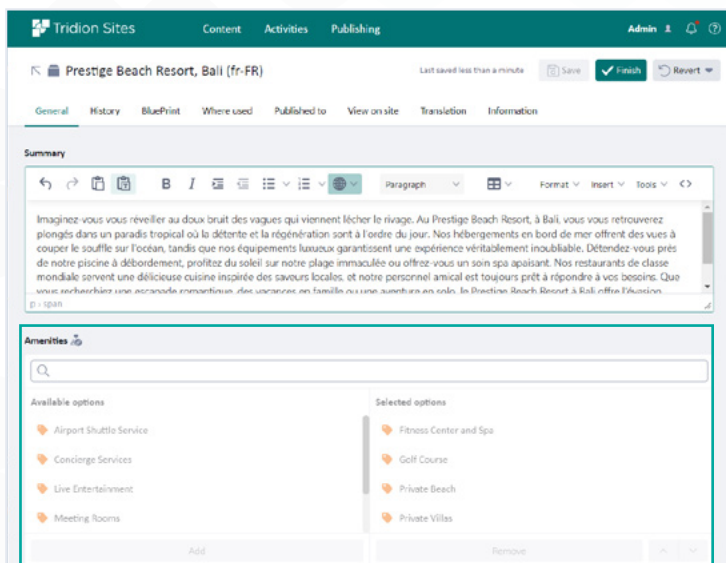
フィールドの Granular BluePrinting

この最新リリースでは、コンテンツ項目の個々のフィールドをローカライズ対象にするかどうかを指定できます。ローカライズ対象外のフィールドは、最上位の親項目でのみ編集できます。つまり、編集内容が子項目にそのまま継承されます。これにより、以前のリリースにあった「全部かゼロか」の継承制限が解消されます。

次の例は、編集可能なタクソノミー（分類）フィールド「Amenities（アメニティ）」を含む親項目を示しています。このフィールドはローカライズ対象外であるため、値は最上位の親から継承され、ローカライズされたフランス語の子パブリケーションでは変更できません。一方、他のフィールドは変更できます。



「Amenities（アメニティ）」は、最上位の親パブリケーションで編集できます



「Amenities（アメニティ）」は、フランス語の子パブリケーションで編集できません

フィールドをローカライズ対象外にする方法

この新機能をサポートするため、フィールドをローカライズ対象にするかどうかをスキーマで選択できます。

The screenshot shows the 'Schema Fields' configuration window. At the top, there are tabs: General, Design, Metadata Design, Source, Workflow, and Info. The 'Schema Fields' section contains a table with columns: XML Name, Description, and Type. The table lists fields: Brand, Id, Summary, and Amenities, all with Type 'Text'. To the right of the table are 'Move up' and 'Move down' buttons. Below the table are 'Add' and 'Remove' buttons. The 'Field Details' section for the selected 'Amenities' field shows: XML Name: Amenities, Description: Amenities, Type: Text. Below these are several checkboxes: 'Mandatory' (unchecked), 'Enable for inline editing' (checked), 'Localizable' (checked and highlighted with a green box), 'Include linked Items in translations' (unchecked), 'Publish this field when you publish an item that uses this Schema' (checked), and 'Make this field searchable for website visitors' (checked).

「Localizable (ローカライズ対象)」は、下位互換性のために既定でオンになっています。子パブリケーションでフィールドを編集できないようにするには、「Localizable (ローカライズ対象)」をオフにします。

ページ領域の Granular BluePrinting

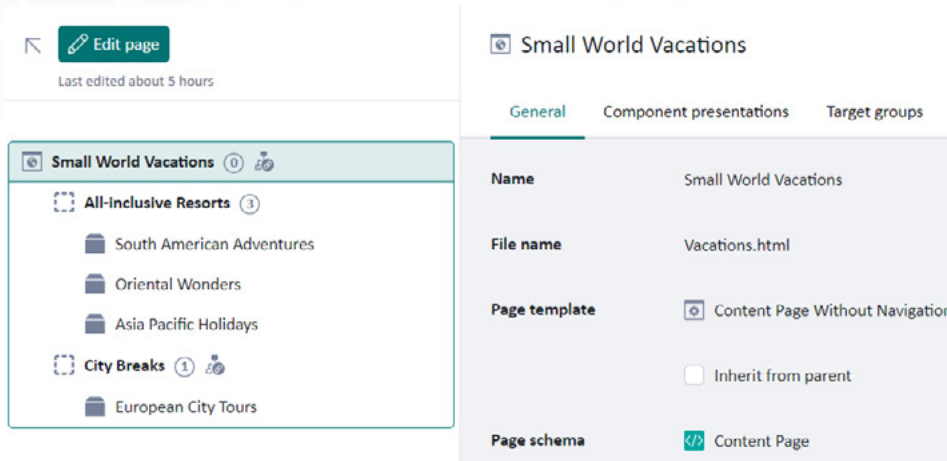
子パブリケーションのコンテンツ項目を翻訳したあとも、親と同じページ構造を維持したい場合があります。これを可能にするために、ページ領域にも Granular BluePrinting を導入しました。

ページ領域のスキーマでは、「This Region can be localized (この領域はローカライズ対象)」をオンまたはオフにすることができます。この設定を変更できるのは親レベルのみです。

このチェックボックスは、下位互換性のために既定でオンになっています。

The screenshot shows the 'Metadata Design' tab for a schema configuration. The 'This Region can be localized' checkbox is checked. Below it is a section 'Configure Number of Components Allowed in the Region' with a message: 'Define the number of Components in this Region. You can also specify as no limits or as an empty Region.' There are two options: 'This Region must be empty' (unchecked) and 'Maximum number of Components allowed in this Region:' with radio buttons for 'No upper limit (No maximum)' (selected) and '1'. Below this is a section 'Schema and Component Template Constraints in this Region' with a message: 'No constraint specified. Any combination of Schema and Component Template is allowed.' and an 'Add Constraint' button. At the bottom is a section 'Nested Regions' with a table with columns 'Region' and 'Schema'. The table is empty, and a message below it says 'This Schema contains no nested Regions.'

領域がローカライズ対象外に設定されている場合、ローカライズされた領域は、最上位の親ページからコンポーネントプレゼンテーションを継承します。コンポーネントの追加、削除、移動はできず、コンポーネントテンプレートも変更できません。ローカライズ対象外の領域のメタデータフィールドは、親ページから値を継承します。



ローカライズ対象外のページ領域を含むローカライズ済みページには  アイコンが表示されます

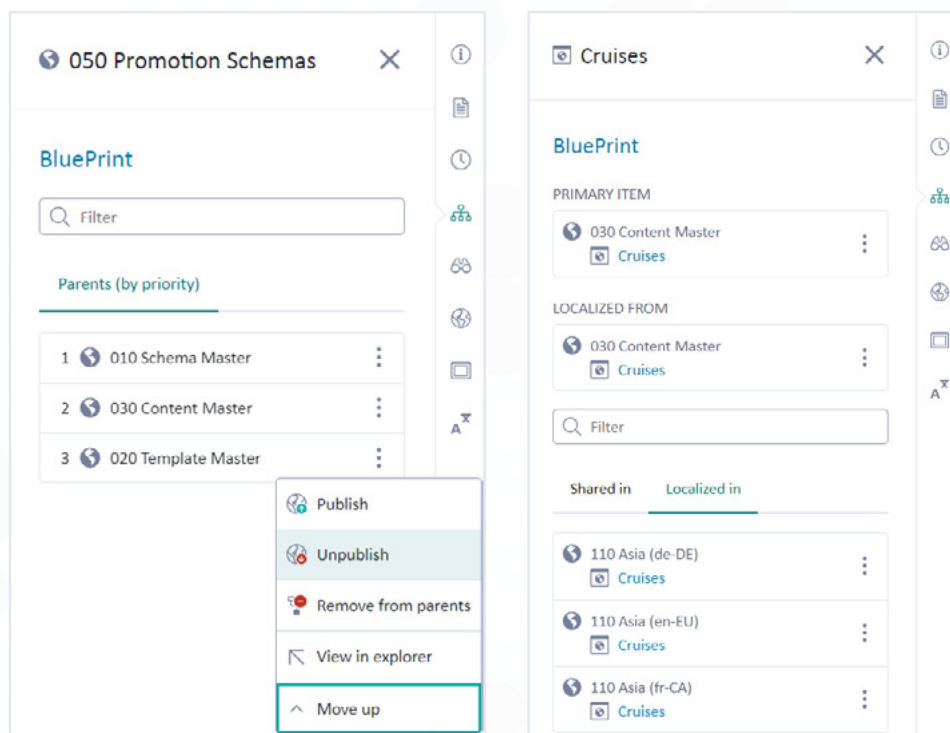
翻訳対象外のフィールド

Tridion Sites 10.1 では、Translation Manager での翻訳対象と翻訳対象外のフィールドの処理方法も改善されています。翻訳が翻訳対象フィールドのみに適用され、親の値が入力された翻訳対象外フィールドが上書きされることがなくなりました。翻訳対象外フィールドでは、手入力した値が保持されます。

Experience Space の BluePrinting 管理機能

Experience Space では、次のようにさまざまな BluePrinting 管理機能が追加され、機能が改善されています。

- 子パブリケーションの「Quick create (クイック作成)」
- パブリケーションの「Add/remove parent (親の追加 / 削除)」
- 上位パブリケーションへの項目や依存関係の「Promote (レベル上げ)」
- 下位パブリケーションへの項目やネストされた項目の「Demote (レベル下げ)」
- 親パブリケーションの優先度の表示と更新
- Blueprint パネルの新しい「Primary item (最上位項目)」リンク (Granular BluePrinting に関連)
- BluePrinting パネルに項目名を表示



BluePrinting パネルの改善

翻訳者向けの状況に応じたビュー

Tridion Sites と Trados Enterprise の統合により、翻訳者は、翻訳中のページのプレビューや、文脈を深く理解するための参考資料の受領が可能になりました。

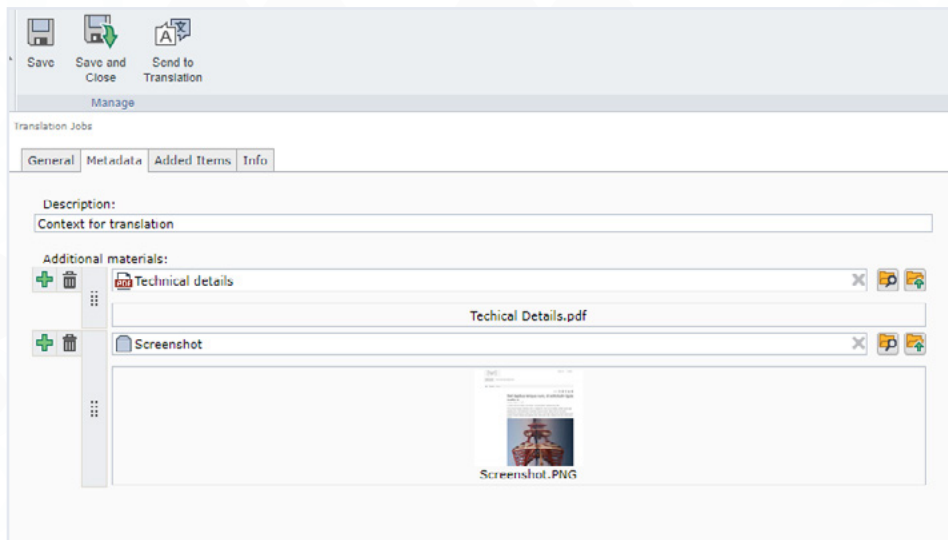
「サイトで表示」するための URL

Tridion Sites Translation Manager では、作成した翻訳ジョブに「View on Site (サイトで表示)」URL を含めることができます。Trados Enterprise では、翻訳ジョブ内の各項目に関連 URL が表示されるため、翻訳者はステージングウェブサイトの文脈の中でコンテンツを参照できます。

Tridion ユーザーは、Translation Manager を使用してコンテンツをステージングサーバーに自動的にパブリッシュすることも、手動でパブリッシュすることもできます。外部翻訳者は、ステージングウェブサイトのアクセス権が必要になります。

添付ファイル

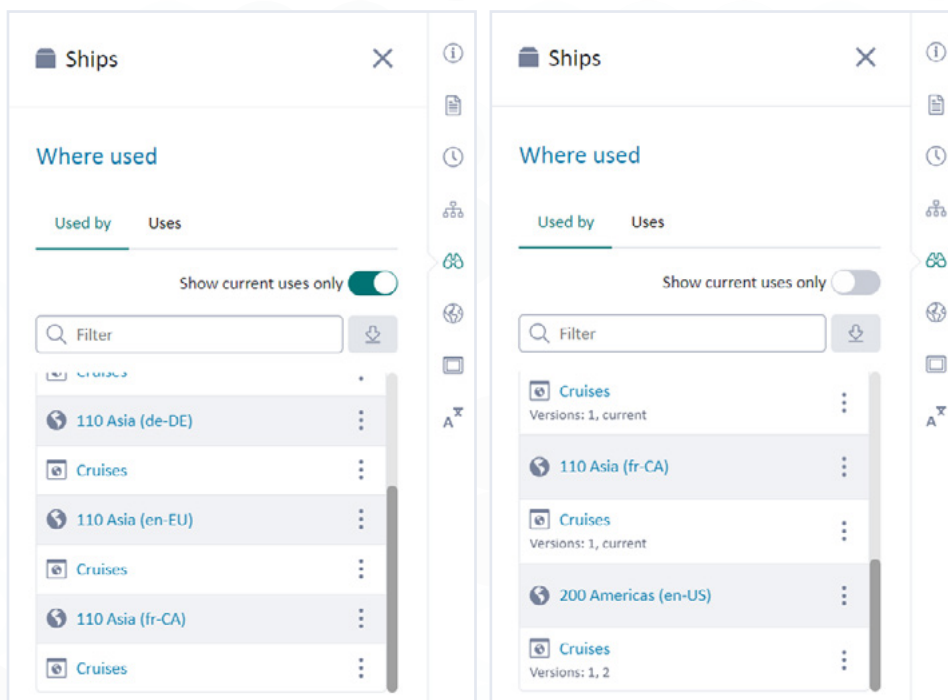
ユーザーは、PDF やスクリーンショットなどの関連ドキュメントを翻訳ジョブに添付し、翻訳者に追加の背景情報や、技術面の詳細情報、文脈に関するビジュアル資料を提供できます。



Experience Space のユーザー体験の改善

Experience Space では、次のようにさまざまなユーザーインターフェイスが強化されました。

- [Where Used (使用場所)] パネルの機能強化
 - 関連情報の表示に重点を置いた改善(例:選択した項目を使用している項目のみを表示する)
 - すべての項目とバージョン番号を表示するオプション (切り替え可能)
 - データをエクスポートするオプション



既定のビュー

バージョン情報を含むすべての項目を表示

- 項目のより迅速な検出を目的とした Content Explorer の表の自由入力形式フィルター
- 編集効率の向上を目的としたテキスト/キーワードリスト用の新しいフィールドエディタ
- ドラッグ&ドロップで表の列を並べ替えるオプション
- ビューを切り替える際に、並べ替え順、選択したフィルターオプション、ユーザー定義の列幅を保持
- 保存されている表設定を既定値へリセット可能
- ページエディタからコンポーネントプレゼンテーションのターゲットグループを設定するオプション
- 検索結果の最大数を指定するオプション

UI 拡張のフレームワーク

UI 拡張のフレームワークは、次のような点が強化されています。

- 拡張機能の開発者によるモーダル型コンポーネントへのアクセスを可能に
- パブリッシングキューデータを公開
- コンテンツを編集できるタイミングと方法をより詳細に制御するための新しいエディタ拡張ポイント

プラットフォームのサポート

Content Manager

- Windows 10 / 11、Windows Server 2019 / 2022
- Linux RHEL 8、9 (最新マイナーバージョン)
- .NET Framework 4.8.1
- .NET 8 (アドオン、アクセス管理サービス、Tridion 統合フレームワーク)
- Eclipse Temurin 21.0 (旧 AdoptOpenJDK)、Oracle JDK 21.0
- Microsoft SQL Server 2019 / 2022、Amazon RDS for SQL Server 2022、Microsoft Azure SQL Database
- Oracle 19c
- 検索: Solr 9.6、Apache Tomcat 9、Apache Tika 1.28

Content Delivery

- Windows Server 2019 / 2022
- Linux RHEL 8、9 (最新マイナーバージョン)
- .NET Framework 4.8.1
- .NET 8 (Tridion 統合フレームワーク)
- Eclipse Temurin 21.0 (旧 AdoptOpenJDK)、Oracle JDK 21.0
- Microsoft SQL Server 2019 / 2022、Amazon RDS for SQL Server 2022、Microsoft Azure SQL Database
- Oracle 19c
- OpenSearch 2.15
- Apache Ignite 2.16

注意: Tridion Sites 10.1 では、Spring 5 から Spring 6 への移行に伴い、Dynamic Experience Delivery (DXD) コンポーネントのプラットフォームを大幅に更新しており、その際に javax ネームスペースから jakarta に移行しています。互換性のあるライブラリを使用していることを確認してください。

詳細はこちら

rws.com/jp/tridion-sites
docs.rws.com/ja-JP

RWS について

RWS Holdings plc は、テクノロジーを駆使した言語サービス、コンテンツサービス、知的財産サービスを提供する、唯一無二のリーディングプロバイダです。当社はコンテンツの変革と多言語データ分析を通じて、AI を活用したテクノロジーと人間の専門知識を組み合わせ、お客様がどこでも、あらゆる言語で理解されるようにすることでビジネスの成長をサポートします。

当社が目指しているのは、グローバルな理解の実現です。文化の理解、企業の理解、技術の理解を組み合わせることにより、当社のサービスとテクノロジーが、顧客の獲得と維持、魅力的なユーザー体験の提供、コンプライアンスの維持、データやコンテンツにおける実用的なインサイトの獲得など、お客様をさまざまな面でサポートします。

過去 20 年間にわたり、当社は独自の AI ソリューションを進化させるとともに、お客様による多言語 AI アプリケーションの探求、構築、使用を支援してきました。また、45 件以上の AI 関連特許と 100 件以上の査読論文を保有し、お客様の AI 導入をサポートしてきた経験と専門知識があります。

世界のトップブランド 100 社の 80% 以上、フォーチュン誌の「最も賞賛される企業」20 社の 4 分の 3 以上、さらに大手製薬会社、投資銀行、法律事務所、特許事務所のほぼすべてが当社を利用しています。クライアントベースは、ヨーロッパ、アジア太平洋、アフリカ、北南米に広がっています。5 つの大陸に展開した 65 を超えるグローバル拠点から、自動車、化学、金融、法律、医療、製薬、テクノロジー、電気通信の各分野のお客様にサービスを提供しています。

1958 年に設立された RWS は、英国に本社を置き、AIM、ロンドン証券取引所規制市場に上場されています (RWS.L)。

詳細については、www.rws.com/jp をご覧ください。

© 2024 All rights reserved. ここに記載されている情報は、RWS Group* の機密情報および専有情報とみなされます。

* RWS Group とは、RWS Holdings plc およびその関連会社および子会社の代表を意味します。